



THE  
BERLITZ  
METHOD®

# LEARN WITH CONFIDENCE

ベルリッツ・メソッドについて  
～第二言語習得に関する  
学術的見地からの補足～

**Berlitz**®

Begin >

## レッスンでは日本語を使用しない。

### 学習言語のインプット量を最大化するために

外国語を学ぶとき、つい母国語を使いたくなります。しかし、第二言語習得に関する研究(e.g. Littlewood & Yu, 2011)から、母国語の使用をレッスン中に許してしまうと、想定以上に母国語を使ってしまう量が増えてしまい、上達に必要な外国語に触れる絶対量が減ってしまうという現象が観察されています。

ベルリッツではこうした研究を踏まえ、レッスン中は外国語だけを使うというルールを定めています。

### ネイティブスピーカーから学ぶことが大切

ネイティブスピーカーが実際に使う生きた言葉から直接学ぶことが、外国語習得のスピードを加速させる重要な鍵であるということが研究から明らかになっています。(e.g. Richards, 2013)

ベルリッツがネイティブスピーカー(\*)の教師による指導にこだわるのは、このためです。

\*学習言語を母国語とする、または母国語と同等に扱える者をここではネイティブスピーカーと定義します。



## レッスンは、話す・聴くに集中する。

### 対面での会話が外国語習得には必要

第二言語習得の基礎を築いた、Michael Longの提唱した「相互作用仮説」は、今も多くの示唆に富み、現在もSusan Gassらによって実証と理論の深化が進められています。こうした研究のなかで、対面での会話が語学の上達において決定的な役割を果たしていることが明らかになってきています。それは、会話において学習者が相手の話す意味を理解しよう、あるいは自分の話す内容を理解して貰おうと腐心する相互作用のなかで、学習する言語モデルの構築と修正が大きく進むからです。

ベルリッツでは、これらを踏まえ、会話する時間をレッスンの中で最大化するように心がけています。

### 学習者にとって、もっとも価値がある内容に

また、その会話の内容についても、適切であるべきです。学習者にとって意味あるインプット・アウトプットが行われるよう、ベルリッツでは、学習者が実際に遭遇し得る会議や交渉など多くのシミュレーション通して会話を組み立てます。

## 文法・語彙は会話のなかで自然に身につける。

### 会話の中で学んだ文法しか使えない

第二言語習得研究に、長年多大な影響を与えてきた Stephen Krashenによれば、文法を正確な体系立った順序で学ぶことは、常識に反して思うよりも効果的ではありません。むしろ、学習者がなんとか理解可能な会話を多く続け、そのなかで間違いと矯正を繰り返し、順序はあまり問わずひとつずつ習得していくことこそが、効果的な学習手段であると提唱しています。

ベルリッツにおいては、こうした見地も踏まえ、必要な文法や語彙の習得を、会話の中で自然に習得できるようカリキュラムが設計されています。

### 「正確さ」と「流暢さ」のバランスの重要性

会話の中身やスピード(テンポ)に集中するなかで、正しい文法を使うことも同時に意識しながら話すこと。これらのどちらかに偏るのではなく、教師が意識的にそのバランスをとりながらレッスンを進めることで、学習速度が向上することが言語学者の研究によって示唆されています(e.g. Nation & Newton, 2009)



## レッスンへの積極参加を促し、話す時間を最大化。

### レッスンへの積極参加が語学習得の鍵

多くの研究者によって、学習者がレッスンにどれだけ積極的に参加したかが、第二言語習得の成否の鍵を握っていることが明らかにされています。

積極参加を促す仕組みとして、伝統的にPPP(Presentation, Practice, Production)が多くの語学学校で用いられていますが、近年の研究ではよりよい方法として、タスクベース学習(Task-Based Language TeachingやTask-Supported Language Practice)と呼ばれる、最初に目標を設定し、その達成を目指すなかで学習する方法が提唱されています。  
(例えばレッスン冒頭で「レストランで注文できるようになる」などの目標を最初に設定しそれに挑戦しながら学ぶ方法です)

### PPPとタスクベース学習を組み合わせた学習法

ベルリッツでは独自に磨き上げたPPP+(Presentation, Practice, Production +)と、タスクベース学習を組み合わせ、より効果的なレッスンを実現しています。

## 学習者のニーズに合わせて、目標(ゴール)と指導法をアレンジ

### 学習者に合わせた目標が語学習得の強い動機に

毎回のレッスンで設定される目標(ゴール)は、各レッスンがどのような現実のシーンで役立つかを明確にするだけでなく、学習者への強い動機づけにも大きく関わります。

グローバル社会のなかで、語学学習は単なる語学の習得でなく、強く願う「なりたい理想の自分像」との関連性を深めています。(Dornyei, 2009) また、「グローバルチームのリーダーを英語で務められる自分」「ドイツ語で自信をもってプレゼンをこなせる自分」といったように、その理想像は人それぞれです。

ベルリッツでは、こうしたそれぞれの理想像に最短距離で近づけるように、学習者と話しながら、毎回の目標(ゴール)を設定します。

### 学習スピードやスタイルに合わせ、指導をアレンジ

なりたい理想像と同様、学習スタイルも人によって様々であることは教育研究の領域では常識です。ベルリッツでは、一人ひとりの学習者に合わせたレッスンスピードや教え方に柔軟に対応できるように教師のトレーニングの仕組みを設けています。